

# 神奈川県におけるガビチョウの営巣記録

藤井 幹・四角目勝二

Takashi Fujii and Katuji Shikakume:

Nesting Record of Melodious Laughing Thrush in Kanagawa Prefecture

## はじめに

ガビチョウ *Garrulax canorus* はスズメ目チメドリ科の1種で、中国の中央から東南部、海南島、台湾、インドネシアの北部にかけて分布する (Mackinnon & Phillipps, 2000)。日本では1980年代から野生化したとされ (日本鳥類保護連盟, 2002)、神奈川県においても広く分布していることが報告されている (山口, 2000; Kawakami & Yamaguchi, 2004)。神奈川県においては標識調査による幼鳥の捕獲等から繁殖していることが確認されているが (藤井, 2000)、営巣に直接関わる記録はまだ報告されていない。

本報告では、東丹沢に位置する宮ヶ瀬湖周辺において、ガビチョウの営巣を確認したので、詳細を報告する。

## 確認時の状況

2004年5月19日、筆者の1人が林道沿いの小尾根を歩いている際に、ガビチョウ1羽が飛び出し、地面で羽根を震わしながら擬傷行動に似た動きを行った。これにより、営巣の可能性を考えて、飛び出した付近を探索した結果、スギの脇にあるイワガネゼンマイに架けられたお椀型の巣を確認した。中にはブルーの卵が5個入っていた。

## 巣の概要

営巣終了後の7月25日、改めて現地に行き、計測等を行った。場所は宮ヶ瀬湖の南部に建設中の村道土山高畑線の七曲付近の小谷で、村道から10mほど谷へ入った斜面である (図1)。巣の場所はスギ植林地と落葉広葉樹林の境で、スギの脇にあるイワガネゼンマイとミツデカエデの幼木にまたがって架けられており、ミツデカエデが支えの役割

をしていた (図2,3)。地上から巣の底部までの地上高は、約30cmであった。巣の大きさは、縦横16cm×16cm、高さ12cm。巣の内径は8×9cmで、巣の深さは9~10cmであった。産座部分には全体的に草の茎が使われており、巢材にはスギの皮や、ホオノキの葉、スギの葉が使われていた (図4,5)。

なお、巣は回収し、計測及び撮影後、神奈川県立生命の星・地球博物館へ寄贈した (KPM-NF2000895)。



図2. 巣が架けられていたイワガネゼンマイ。



図1. 林道から見た営巣環境。



図3. 架けられた巣。



図 4. 回収した巣（上から）.



図 5. 回収した巣（横から）.

#### 引用文献

- 藤井 幹・丸岡禮治, 2000. 神奈川県立自然保護センター野外施設における鳥類標識調査報告. 神奈川県立自然保護センター報告, 17:1-9.
- Kawakami, K. & Y. Yamaguchi, 2004. The spread of the introduced Melodious Laughing Thrush *Garrulax canorus* in Japan. Ornithological Science, 3:13-21.
- MacKinnon, J. & K. Phillipps, 2000. A Field Guide to the Birds of

- China. pp.420-421. Oxford.
- 日本鳥類保護連盟編, 2002. 鳥 630 図鑑改訂増補版, p.324. 日本鳥類保護連盟, 東京.
- 山口喜盛, 2000. 神奈川県におけるガビチョウの野生化について. BINOS, 7:43-50.

（藤井，四角目：神奈川県野生生物研究会）